

第二回 ゼミ活動報告

書記 高地 良典

< 英語 > TIME 8 0 0 試験

NEWS RELEASE より Completion of the review of the guidelines for U.S.-Japan defense cooperation を 1 0 分で読み終え大意を捕らえる練習をし、皆で訳していた。狙いはインターネット、ニュースにおいて、正確に早く理解できるレベルまで持ち上げる目的。

< 経済原論 >

微分法の続き 費用曲線のシフト

< 第九章 安全保障討論 >

日米安全保障について賛否に別れて討論

賛成：14人 反対：7人

第一論点；日米安全保障の必要性

賛成派・条約破棄は防衛力拡大につながる

- ・日本は非経済的な防衛費の拡大よりも平和な貿易を続けるためにも必要
- ・安全保障自体が戦争の抑止力になる etc

反対派・日本の防衛力には侵略能力がないというのほうそ

- ・安全保障の内容が曖昧
- ・市民のコンセンサスがまだとれていない
- ・安保はアメリカの善いようにつくられている
- ・アメリカにとってはメリットがあるかもしれないが日本にはない etc

その他・グローバル社会にとって国際関係は依存であるためこれからは協力関係で解決

総論：アメリカの安保に対する意識の変革が存在する。それは命を懸けて日本を守る義務が今後存在するのか、また、これからも日本はコストに関わる問題の解決だけでよいのか

第二論点；クライシスコントロール

- ・有時法、集団自衛権などの制定に伴い、パワーバランスをとる方向
- ・実際に戦争が起きたらどう動くかが決まっていない日本は平和ボケしているためクライシスコントロールをどう考えどう養うか、それは意識変革にある

総論：理想は歴史から人民が学び兵器を無くしてゆく方向であるが、すべての人民がそこまで果たして学ぶ事ができたのか、そしてできるのか。その上で実際安全保障の存在意義について考えると、賛否別れるが、日本の選択は国際関係の平和的維持と信頼を築く事にあり、世界経済発展の一躍を担うことで世界平和に貢献するべきである。